

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
臨床基礎検査学実習	1年次	必修	実習	1単位（45時間）	小林 浩二
授 業 概 要					
一般検査における検体採取とその取り扱いを理解し、模擬検体（もしくは実検体）を用いて、尿検査、尿沈渣検査、便検査、脳脊髄液検査、喀痰及び穿刺液検査を行う。尿検査においては用手法及び自動分析機による測定についても同時に学ぶ。また、尿沈渣標本の作製と鏡検を通して、沈渣に含まれる細胞等の成分について理解を深める。寄生虫検査に関しては、検査法を通して虫卵、幼虫及び成虫を鑑別できる実践力を修得する。					
到 達 目 標					
<p>○各種検体の取り扱い：尿の性状を理解し、適切な検体採取及び保存法を選択できる。</p> <p>○尿検査 ①尿検査法の操作を理解し各種成分の検査ができる。 ②尿検査法の反応原理と偽反応について説明できる。 ③尿沈渣標本作製し成分を鑑別できる。 ④尿中抗原検査を行い正確な結果を出すことができる。</p> <p>○便検査：糞便の性状を理解し、潜血検査、脂肪便検査や抗原検査を実施できる。</p> <p>○髄液検査：髄液の性状を理解し、細胞数のカウント及び生化学検査を実施できる。</p> <p>○喀痰検査：喀痰を適切に処理し検査を実施することができる。</p> <p>○穿刺液検査：穿刺液の生化学的検査及び鏡検により結晶成分等の鑑別ができる。</p> <p>○寄生虫検査：寄生虫の虫卵、幼虫、成虫を鑑別できる。</p>					
実務経験のある教員					
星野ちなみ、小野篤史：病院での臨床経験を活かし、尿沈渣検査の実技に関する実践を行う。					
回	学 習 内 容				担当教員
1-6	寄生虫検査1：各種検体取り扱いと検査法 寄生虫検査2：線虫、吸虫の検出と同定 寄生虫検査3：条虫、原虫の検出と同定 寄生虫検査4：実習データを用いた寄生虫検査におけるPBLの実践				小林 浩二 星野 ちなみ ※
7-12	尿検査1：検体採取、多項目試験 尿検査2：尿蛋白定量、各種尿定性試験				小野 篤史 ※ 小林 浩二 星野 ちなみ ※
13-16	尿検査3：尿沈渣標本作製と標本の鏡検				
17-18	髄液検査：細胞数カウント、生化学的検査				
19-20	糞便検査：便潜血検査、脂肪便検査				
21-22	喀痰検査：前処理と検査 穿刺液検査：関節液中の結晶の同定、生化学的検査				
23-24	実習データを用いた一般検査におけるPBLの実践				
学 習 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・予定表に従い事前に予習しておくこと、検査の実施がスムーズになる。 ・教科書、配付資料やWEB教材を効果的に利用し復習をしておくこと。 ・配付資料、実習記録は全て実習ノートにまとめておくこと。 					
評 価 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・実習終了試験（40%）、実技試験（30%）、実習ノート（30%）により評価する。 ・実習ノートは、評価基準に従い評価し、これを満たさない場合は評価しない。 ・再試験は筆記試験で評価する。 ・やむを得ない事由による欠席の場合は、補習実習を行うことがある。 					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
<p>〔教科書〕 臨床検査学講座 一般検査学（編集：三村邦裕、宿谷健一 出版：医歯薬出版株式会社） 臨床検査学講座 医動物学（著者：平山謙二 出版：医歯薬出版株式会社）</p> <p>〔参考書〕 一般検査技術教本（監修：一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 出版：丸善出版） 尿沈渣検査法2010（著者：尿沈渣検査法編集委員会 出版：（社）日本臨床衛生検査技師会） 臨床検査法提要（監修：金井正光 出版：金原出版）</p>					